

推薦教員	臨床心理科 濱口 佳和 先生		
書名	遊戯療法と箱庭療法をめぐって		
著者名	弘中正美 著	出版社	誠信書房
請求記号	146.82 Hir	資料 ID	901131463

【推薦コメント】

この本は、日本の代表的な心理臨床家の一人である弘中正美氏（元明治大学教授）が、長年の実践と思索を経て生み出した遊戯療法と箱庭療法についての専門書です。遊戯療法・箱庭療法の治療メカニズムについて、しっかりと定義された概念で構築されている確固たる理論が、著者自身の心理臨床実践の具体的な記述を効果的に交えながら、落ち着いた温かい口調で語られています。子どもの心理臨床について理解を深めるうえで大変有益な書物です。

第Ⅰ部「遊戯療法をめぐる諸問題」では、「アクスラインの8原則」と呼ばれる、セラピストが遊びの中で子どもとかわる際の鉄則が説明され、次いで、その鉄則を守って子どもと遊ぶことが、どのようにして子どものこころを癒し、整え、成長へと導くのか、その鍵となる3つの治療機能—関係性の機能、表現・体験の機能、守りの機能—について、具体的例を交えながら述べられています。その後、登校渋りがある小学1年生の事例が紹介され、破壊と創造をテーマとしたスケールの大きな遊びに繰り返し没頭することにより、子どもが確たる自我を次第に形成してゆく過程が印象的に描き出されています。

第Ⅱ部「箱庭療法をめぐる諸問題」では、箱庭療法の基本的事項の説明後、その治療的要因について論じられています。セラピストのすべき仕事は、「クライアントの自発性、箱庭表現の自然な流れを最大限尊重すること」だという著者の言葉が大変印象的です。ここではクライアントとセラピストが隣り合わせでそれぞれ箱庭に取り組む「並行箱庭作成」という斬新な実践事例も紹介されています。

第Ⅲ部「治療メカニズムについて」は、本書のまとめとして、遊戯療法と箱庭療法の治療メカニズムの理論が述べられています。「セラピストの能動的な応答を通じてクライアントが自分の状態を丸ごと受け止めてもらったと感じる」前概念的水準でのコミュニケーションの重要性が強く訴えられています。

本書は専門家向けの本格的な理論書ですが、考え抜かれた言葉、磨かれた文体で遊戯療法と箱庭療法の奥深い魅力に触れさせてくれる。心理臨床を志す方にはぜひ読んでいただきたい一冊です。